



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.3.7 No. 3955

小選挙区制法案
改悪案

問答無用の強行 成立許さない!

小選挙区制の反動性 ここでも自己暴露

「各社新聞も批判」

細川政権は、またまた自民党と密約を計りながら国会審議すらも行なわず「政治改革」法の改悪案を強行成立させようとしている。

その内容の骨子は、企業、団

体献金を全面的に容認するものであり、政治腐敗をさらに温存助長させるものである。

各社新聞でも「納得できない」「初心ゆがめた内容」等、一様に批判している代物である。

金権腐敗の元凶「企業、団体による政治献金の全面容認!!」

「改革」案は、企業や団体による政治献金について、全面的に認めていることである。要するにこれまでと全然変わらぬ

ということである。「改悪案」では、随所に抜け道がつくられている。

わかりやすく言えば、政府案では政党や政治資金団体に献金した形をとれば政治家個人が企業献金を受け取ることが出来る

内閣改造問題で分極化する連立政権



(早期改造反対) (早期改造推進)

とまで言い切っていた。それが一担入閣し、細川・小沢に取り込まれるや連合を先兵にして黒を白と言いつくめるような態度に豹変している。

どこまで人民大衆を裏切るのか!!

ところで社会党や公明党はどこで裏切ろうか。

細川内閣の発足当時「腐敗をなくすための政治改革」(社会党)「企業、団体献金禁止は、政治改革の生命線」(公明党)

というものであり、逆に政治屋どもは以前よりも公然と献金を受け取れるようになるというものである。

また、後援会、を変えて支部に看板を変えればそれで良いというものであり、その支部

国鉄闘争の前進が情勢を変える

細川・小沢による大政治反動

と「大失業時代」の首切り攻撃の中で、労働者はいかにしたらの逆流情勢を突き破り、労働者の未来に希望と展望をさし示すことが出来るのか。

結論から言って、連合を根幹から揺るがしている国鉄闘争の前進と固く結合した細川・小沢政権打倒の闘いの推進によって必ず情勢を変えることが出来るということである。

三里塚現地集会へ